

# 5万分の1地形図に見る渡良瀬遊水地第2調節池周辺の移り変わり①

～明治42年大日本帝国陸地測量部「古河」より～

この地域を表した最初の5万分の1地形図です。明治22年（1889年）の町村制施行に伴い、「生井村」が誕生し、「上生井」「下生井」「白鳥」などの各集落の文字も見えます。この地形図が作成された時期は、足尾鉍毒事件に伴う渡良瀬遊水池や利根川水系の河川改修計画が具体化する以前であり、現在と異なり、思川や巴波川、与良川など当時の河川の流れるのがかなり蛇行していたことがわかります。

生井地区では、地形図から思川・巴波川・与良川の各河川の自然堤防上に集落が発達した様子をうかがうことができます。当時の生井地区の土地利用を見ると現在と比べて水田が少なく桑畑が比較的多いことがわかります。これは、かつて養蚕業がさかんだったことを裏付けるものです。また、当時の道路は江戸時代からのものも多く見られ、「陸羽街道」（江戸時代の日光街道、現在の国道4号線）の野木から思川・巴波川沿いに北上する道路（江戸時代の脇街道「日光山近裏道」と網戸方面から思川沿いに伸びる道路が学区内の主要道路だったようです。

